



羽津小中合同バザー大成功

十一月二十三日(火)バザーが皆さん全員の協力で理解の基で成功の内に終り、ありがとうございました。今回は羽津小・羽津北小・羽津中学校の3校合同バザーとなりました。羽津連合自治会の協力で、羽津地区

十一月二十三日(火)バザーが皆さん全員の協力で理解の基で成功の内に終り、ありがとうございました。今回は羽津小・羽津北小・羽津中学校の3校合同バザーとなりました。羽津連合自治会の協力で、羽津地区

全員のバザーとなり結果もよかったです。学校教育施設の充実に役立つ事になります。特に羽津北小学校は新設校なので、いろいろの教育、環境整備をしなければなりません。一度に全ては出来ないで、少しずつ、重ねて、生徒達の教育に役立てたいとの事です。

年間行事の一つであるバザーも、二ヶ月前より準備に入り各校寄り合つて小中合同バザーとなりました。当校も各町代表、町委員、学級委員、学年代表、常任委員、本部役員と全く全員で行なわれました。十一月十四日頃より出品物の依頼回収に廻り、十八、十九日の両日で搬入となりました。その後、品物別の区分や、値付、荷造りと夜遅くまで行なわれました。当日二十三日は天候の不安があり、体育館と校舎内で開催されました。開店十時が待ち切れず、入口には、長い列が出来ました。開店一時間後の十二時頃には、ほとんど売れてしまいました。例年通りオークシヨンの、一ぱい五十円のホットコーヒーが出されました。各コーナーには人垣がいっぱいで盛況の中楽しんで買物していました。今迄の最高の結果が得られた事は、よかったです。

思います。私はこの様なバザーに参加したのは初めてなので、この状況に全ての面で驚きました。心の中でこんなに売れるのかと、しかし他の方々に聞くと、毎年この様な事だと言われ、納得した次第です。小さな積重ねが大きな結果を招くとは、この事でした。出品物も生鮮から日用品、家庭用品、テレビまで有りバリエーションにとんだ売場でした。紙面に書くとききつけない様な、さまざま出来事、有りました。百圓は一見にしかずですから、ぜひ来年からのバザーに協力及び参加して下さい。バザーを通して会員の方々の御協力ありがとうございました。又重ねて、地区隣り近所の方々にもお礼申し上げます。後日バザーによる設備が出来た折には、御来校の時に見て下さい。御礼と状況報告をさせていただきますました。

バザー担当 久志本正彦

バザーの収益金総額 一六八、九二二円
経費(消耗品等) 一八、二二五円
差引収益 一六六、七六七円

※収益金は、羽津小、羽津北小、羽津中学校に均等に三分され、本校分として五十五万円が配分されましたので、報告いたします。



編集発行 校部
羽津北小 報部
PTA 阿
印刷 阿竹印刷工業(株)

第 6 号

ちよーとした心遣い

教諭 平田 清則

この間の両親学級の日の見たま、思つたままを書いてみたいと思います。あいにくの雨でしたが非常に沢山の山のお父さん、お母さんが我が子のため、授業参観、懇談会に出席され、熱心さの現われた一日であった様に思いました。

この日は、相当数の方が自家用車を利用されましたが、この時の校内での駐車場の仕方、また、下駄箱の利用の仕方について考えさせられる場面がありましたので一言。

まず、校内への車の乗り入れについて、学校側が標示しなかつた手落ちもありましたが、校舎北側の空地の奥の方が随分空いていたにもかかわらず、はいり口は四・五台の車が駐車してあったので、後から車でも来られた方が困られた事です。

次に、下駄箱の利用の仕方について、保護者の皆様方が利用できる下駄箱の絶対数は不足しますが、雨にぬれたまま、泥のついたままの履物を下駄箱の上に数多く置いてあったことです。

禽舎(きんしゃ)の完成

去る十月末日校門を入つた南側の樹木園の中に、素晴らしい禽舎(きんしゃ)が完成しました。六角形で内径一・八米・高さ二・一米・緑色のしよんやな小鳥小屋です。これはPTA保険団体の資金で作つてもらつたものです。禽舎(きんしゃ)ができたので、早速PTAの方より、セキセイインコを単箱を寄贈していただきました。現在九羽のインコが楽しそうに囀(さえず)りを聞かせてくれます。新設校の環境整備として、みなさんの好意によってつくつていただいたものです。

十月中頃校庭に小さな虫が飛んできて、とまりました。何んの危害もあたえない可愛い虫です。そこを通りかかった子どもが、近寄つていとも無造作に、踏み殺してしまつたのです。その無神経さに大きなショックを受けました。

人間誰でも、我が身の可愛さをのために、置きやすい所、帰りに出られやすい所を選びます。わずかの車だけなら好きな場所に置くのもよいでしょうが、沢山来るものがわかつてくるときは、一台でも多く駐車できることを考え、また、履物が下駄箱に入らないときは、天候の善し悪しにもよりますが、雨天の時などは、土間に置くとかして欲しかったと思いました。

しかし、総ての方がこの様なことをされたのではなく、校舎の北側にきちんと斜め駐車された方々、端の方から順に駐車された方々、また、下駄箱の上に紙袋・ビニール等を敷き、その上に履物を置かれたり、土間に揃えて置かれた方々等もよつとした心遣いの駐車、履物の置き方もありました。この様にして、各々がちよつとした心遣い、をすれば、一台でも多くの駐車ができるし、子供達が平常の掃除より多くの時間をかけて雑巾がけしなくてすむわけになります。

どうか、子供達の今後のためにも、ちよつとした心遣い、を身を持って教えてやっていただきたいと思います。

新教育課程の実施によつて、心豊かな人間性」が求められている今日、それと裏腹な殺伐・無味乾燥・無感動な現代つ子に、この小鳥小屋は、何よりのプレゼントだと感じています。

可愛い小鳥の囀(さえず)りに耳を傾け、これを観察し、飼育することによつて、子ども達の心に生きものに対する、愛情が育つことを願っています。

新年度からは奉仕活動の中に、飼育部を創設し、この小鳥小屋を教材として、教育活動に生かしたいと思つています。こうした学校の願いを、ご理解いただき、ご家庭における生活の中で、より深い愛情と、より豊かな心情が養われるよう、ご協力を賜りたいものです。

末筆になりましたが、禽舎を作つていただいた方、巣箱を掛けていただいた方、小鳥を寄贈いただいた方々に、紙面を借りて心よりお礼申し上げます。文責(田村)

両親学級にやせて

一年一組 森

十一月七日授業参観後懇談会はお父さん十一名、お母さん三名、先生一名で始まりました。一年生のテーマは「子供からお父さんへの願い」という事で、すでにアンケートをとっていたのでありましたので、それに基づいて始めました。お父さんへの願いで一番多かったのは、やはり休みの日、ひまな時は遊んでほしい。でもお父さんとしても遊んでやりたい気持はあるのだが、休みの日はゆとりなく過ごすように。でも普通の日帰りか遅く子供の寝顔を見るだけとか、あまり接する時間がないので、やはり日曜日はお父さんもお疲れで見えるけれど、少しの間でもいいから子供と共に何かをする事で子供達はうれしいのではないかと話して、子供にいい聞かせる。



話は最後まできちんと聞くようにしつけるなど。その次に多かったのがお酒を飲みすぎないようにとか、たばこを吸うのをやめてほしいなど、お父さんの健康面を心配しているようにでした。それにおこらないうでほしいと言った事がありました。悪い事をした場合はその場で悪いとはつきりしかり、いい事をした場合はほめたい面は出来るだけ見つけてやるように、子供に注意する時も感情にこだわらないで言う。その他いろいろな物を貰ってほしいとか、お父さんお母さん仲良くしてほしいと言った事もありましたが、やはり子供にとって親はいい手本なのだから、これからはお父さんお母さん共々反省させられた面もありました。

それから「お父さんにしていただいてうれしかった」事は、どこかへ連れて行ってもらった事や遊んでもらった事など、やはりみんないい事ばかりで、何事もやる事が、子供達にとっては一番うれしいし、家庭への幸せにもつながるのではないのでしょうかと思いました。今日のお父さんは静かな方ばかりで、あまり意見も出さずこの様な事で終わりました。でもいつも授業参観とか学年行事などお母さんばかりなので、今日両親学級でやはりお父さんのきて見える子供さん達は喜んでいました。

一年生両親学級

一父兄

朝から雨が降るあいにくの天気でしたが、どの教室にも沢山のお父さん、お母さんの顔が見られました。その後の学年懇談会は「親子の育った時代のちがいにについて」というテーマをもとに、一年一組の先生



で約二十名程の参加者（父・母半々位と先生）、座談会形式で始められました。

今は物が豊富にあり過ぎて、お金を出せば何でも手に入る時代。がまんとするこの忍耐力、厳しさが欠損する子供が多く、又親にも物さえ与えてあげれば良いという甘えがあるのではないか。

子供のアンケートを見ますと、特にお父さんに対して休みの日に一緒に遊んで欲しいという意見がほとんどで、親として限られた時間をうまく使って子供との交流をはかる為、テレビ等でムダな時間を過ごしてはいないか？ 又、遊ぶだけでなく草取り等、親と一緒に仕事をしながら交流するのも良い方法だと思う。

何しろ子供は親の姿を見て育つので、親として人生感を持ち、家庭内で何か楽な事良いから一つ責任を持たせ（例えば新聞取り）、自分が家族の役に立っている事を自覚させ、もし怠けたりしたら、時には厳しさを話さなければならぬ。

四年生の特質

何事も筋道を立てて考えられるようになる。自分と友達との比較が出来る様になる。すなわち客観視する事が出来る。表面的だけではなく、内面的にも友達付き合いが出来、自立の芽がめばえる。

- 集団意識の確立
- 具体的な例から抽象的な例になる
- 復習中心の勉強でよいが毎日きつちりと机に向かわせる習慣づけを意欲を育てる様、努力してほしいとの事

父親の役割について

出席者一人一人の自己紹介を兼ね

一言ずつ意見を話し合ってもらいました。時間が過ぎるに連れて一人一人を意見を聞くだけに終わりましたが、次回からはそれに対する先生方の考えや、父親の意見も出し合える様にしてゆきたいと思われています。全般的には教育は母親が中心ですが、父親は父親なりに夕食はなるべく家族一緒とか、お風呂、スポーツ等で子供とのスキンシップを考えておられる方が多い様です。又、反面、母親よりもよくこまめに子供の面倒をみておられる家庭もある様です。父親の役割りを改めて考えますと、高学年、中学生になつたころ一番という時が父親の出番ではないかと考えます。父親は母親よりも、しっかりと自分の考えを持ち、一番よく子供を客観視出来る、一番身近な人物と考えます。そして、こんな機会に一人でも多くのお父様方に出席していただければ、お母様方の努力を期待します。

も持つて対処する事も必要でしょう。それにくわく母親は口やかまし過ぎると言う教頭先生の御意見もありました。

今の子供は男女とも細かい事をやるのが好きで、昔の様に大あばれして遊ぶ事が少なくなり、特に男子の体力が下がっているそうです。

自分が幼い時、学校の先生からお話や本を読んでもらった事がとても心に残っているし、それがきっかけで読書する様になつたという体験談が出され、それに対して先生より、本の読み聞かせ等、子供の心に芽生えた物を大切に学年と考えるとこの御意見も出ました。

各先生に一言お願いしましたら、一組、子供の良い所を見つけて、悪い所ばかりを見ない。二組、人の立場にたつて、人を思いやる気持を大切に。三組、怒る事が多いので、ほめる事をもっとしてほしい。と言われました。

最後になりましたが、ある教育者が言われた言葉です。「校内暴力をふるう子供の性格は、小学校三・四年生に決まる」。程度、これからその大事な二年間を迎える子供達。その子供達を取り巻く学校生活、家庭生活、とても重さを感じさせられました。

両親学級 親の姿について

日曜日、二日寝して、子供の面倒を見てくれない、子供と一緒に遊ぶ約束をしていたのに。

日曜日の二日寝はサボリで、父親は一生懸命働いているのであって、父親の権威を示すべきである。母親が「」様に、子供と一緒にいなくて、父親の意見をすることは出来ない。

なぜだろう。「口癖はと考えると、今、はつきりと父親の立場と権威を發揮すべきであり、その時は母親もエッジを削ぎたい。そうしないと、小学校高学年から中学生になつたとき、母親が困つて父親の権威が必要な時、發揮できないであろう。一番苦勞するのは母親である。

宿題はしてこない、先生のいっただことはしてこない、本当に困つた児童でしたが、あるきっかけでほめてやる機会があり、その後は大きく良い方向に変わっていきましました。児童に教えられました。

自分の子供は自分で責任を持つて育てる、易しいが実は難しいことである。子供を知ること、知るためには観察すること、けじめをつけること。良い行いはほめ、悪い行いはしめる。実はむずかしいことです。



ほめることの基準→その子に あつた
しかることの基準→その子に あつた
実は一定して年令と共に変化していくのです。又、その人の能力によ

両親学級に参加して

五年 学級委員

十一月七日（日曜日）両親学級に参加し、授業参観の後、五年生の御父兄と先生方で、学校生活における子供の実態について、先生のお話を



ともに、懇談が行われました。

まず最初に、懇談資料「強い子・賢い子に育てるために」二十のチェックポイントを記したプリントを参考に、説明を聞きました。その後、学校での子供達の様子を伺いました。御父兄の意見として、子供達に我慢強さ、根性がほしい。親の方も、おしつけが多いと思う。良い事と悪い事のけじめは、しっかりとつけさせたいと思う。と云う意見がありました。先生の方からも、厳しさを口で言つたりしかるだけでなく、子供が完全にやり通すまで、態度で見せる必要があるのではないか。と言つたアドバイスをいただきました。いろいろと有意義な話を聞き、私達、親として大きな目で子供の成長を見、子



供を厳しさと同時に、暖かく見守つてやりたいと思つています。雨という生憎の天候の中、お忙がしい所、御出席いただき、どうもありがとうございました。

六年生の授業参観と両親学級

赤塚八重子

十一月七日（日）に行われた授業参観は、各クラス共、大勢の父兄の方に参加いただきました。

「学校での子供の様子について」話しあいました。各クラスの先生方から、学校での子供の様子を「学習面」「生活面」など、いろいろの角度からお話いただきました。又、家庭では、仕事の都合でついても子供といつしよにいる時間の少ないお父さん達は、自分の子供の頃と比べて、いろいろな意見や活発な考えも伺いました。子供達の学校生活を見ていただき、毎日毎日元気に成長していく子供の姿を見つめていきたいと思つています。

つても、

友達と約束をして帰宅するが、子供の気持ちも考えず、母親が勝手に用事とかソロソロ塾等へと子供を追い出す、友情を疎外させていることに気づいて欲しい。

三年生に成長してまいりますと、早い児童は、ほろほろ親離れのきざしが見られます。と云って、だれど、こんな遊びをしているか、よく知ることが大事であり、帰宅時間の励行を徹底させることだと思う。

近頃は遊ぶ場所が限定され、どうしても友達が出来がたい。そのため友達が集まる場所、例えばソロソロ塾、学習塾、スポーツクラブ等へ通わせ傾向が強い。又、その為共働き家庭も多くなつてい

ます。それだけ親子の接触時間も少なくなり、親の不行き届きが生じ易くなります。成績が良いからと安心せず、こたばい、親に接する態度が変化してないか、早く早めに知るため接触時間をつくる様、親も努力するべきである。特に父親は、私は自分自身の事を分析したことがありません。

なぜ悪いのだろう、なぜそうなつたのだろう。父兄のおいたち、自分のおいたち、子供のおいたち、今の家族のありのままの姿。

結論ははつきりとなつたかという原因は、なぜそうなつたかという原因はやはり生れて一〇才頃まで、家庭環境が大きく、その子の考え方、行動に大きく影響を与えているものだと云うことがわかつたからです。それだけに大事な時だと思つています。

なぜだろう。勉強ができない、わからない、なぜわからない、先生の話をきか



い、きいてわからない、体力、い、本を読まない、友達ができない、友達が出来ても長続きしない、なぜだろう。人のせいにする、素直でない、へりくつをいう、口ごたえする。机の上がきたない、忘れ物が多い、なぜだろう。字がきたない、長く続けることが出来ない。

結果が今の自分の子供の姿です。今の子供の姿をすべて認めてやるべきである。何故なら、今の親の姿であるから、今から出発すべきである。子供をしめる前に、なぜそうなつたかを考えるべきである。原因がわからなければ誰かに相談し、早く原因をつかむようにすべきである。

両親学級には、多数出席していただきありがとうございました。その後の懇談会では、「学習について」と「父親の役割」というテーマで行われました。学習について先生方よりお

楽しかったハイキング・フォークダンス 三重県民の森へ親子ハイキング

10月24日の日曜日に教養部主催の親子ハイキングに参加しました。話には聞いていましたが、三重県民の森とはどこかしら、どんな所なのか、眺かしながら知りませんでした。

狐野町、草里野そう、そののと読むんです。

車で一足早く着いた私達は、静かな山合いの広い会場にびっくりしました。第31回の全国植樹祭が催された所です。我が家の息子「遊ぶところがない」って。現代っ子は、遊園地しか遊べないのかとがっかり。自然学習展示館では、ふだん私達が目にする事が出来ない生物のはく製、そして山に一方を囲まれた三重県の森林の様子を、ゆっくり見る事ができました。一步外に出ると「自然の森」、「流れの広場」、「四季の森」、「郷土の森」と広い範囲がよく管理されていて、自然学習や散策にすばらしい所です。

美しい芝で早目の昼食後、子供達は、じっとしてられず、走り回ったり、ころがったり。友達とつれだって、自然林の中にあるやすらぎの小道や、ささやきの小道を散歩して、ゆく秋をじっくり味わいました。

四季を通じて、自然と接することが出来るこの施設を、もっともっと皆に知って欲しいと思いました。

また来ようねと子供達と約束しました。本当に機会を作り、お弁当を持って出かけようと思っています。



三年生の学年行事も無事終える

増田 正明

去る11月19日、1時30分～3時まで、校庭で児童101名、父兄77名参加のもと、無事終えることが出来ました。

先生、学級役員、ご父兄の協力ありがとうございました。

見て感じた事柄を個人として述べたいと思います。7～8名の男子児童はもう母親の運動能力をはるかに超えています。3年生では母親が勝ちましたが、4年生の男子組と母親組では男子が勝ると思います。児童は早く成長するものだとつくづく知り、なんとカスポーツを正しく理解し、訓練すれば決して、悪い子供を生むことはないと思うし、あの能力をもっと伸ばしてやりたいと感じた。良い意味でのボスの存在が生まれてくるものだ。

3、4年で男女間の運動能力の差が大きくなってきます。

特に女子の運動能力のない子とでは大きな差が出来、ふれあいが少なく、グループに接触しなくなります。他もその点よく注意して子供がどう変化していくか、深く見つめてやりたいものだ。ただ強いから、こわいからと恐れず、女子の運動能力のある子はどしどし男子の中に入って運動し、組の重要な役わり造りの立場になってもらいたい。そのことによって、組の活動が生きも死にもなるものだと思う。又、自分にも自信となって返ってくるものだ。教育のすみで小さくなっていては教室は生きてこないはずだ。教育のすみで小さくなっていては教室は生きてこないはずだ。

服装、はき物に注意して下さい。子供は見てます。ドッジボールは、時間が短く、そのため一部の男子生徒中心になりましたが、男女に分けて長くしたら全員が楽しく出来たと感じた。インベーダー数人の父兄がこけましたげがもなく終えました。母さんが前にかがめておしりを後へ出して、その背中に子供がくっついての、それでも一生懸命でした。全体的に競技時間が短く消化不良の感もありましたが楽しい半日であったと思います。三学期も学年行事を行いますので、よろしくご協力の程お願いします。

服装、はき物に注意して下さい。子供は見てます。ドッジボールは、時間が短く、そのため一部の男子生徒中心になりましたが、男女に分けて長くしたら全員が楽しく出来たと感じた。インベーダー数人の父兄がこけましたげがもなく終えました。母さんが前にかがめておしりを後へ出して、その背中に子供がくっついての、それでも一生懸命でした。全体的に競技時間が短く消化不良の感もありましたが楽しい半日であったと思います。三学期も学年行事を行いますので、よろしくご協力の程お願いします。

六年生学年行事について

広瀬 道子

第2回学年行事を、11月19日、授業参観並びに「中学校生活、学習全般」について、羽津中学校校長先生、教頭先生をお招きして、お話を聞かせていただきました。生徒数89名の内、85名の参加をいただき、ありがとうございました。

校長先生のお話をお聞きして、中学生は、子供から大人へと成長する過渡期に入って、むずかしい年頃となり、若者としての存在を、主張しようとしています。その主張が子供でありましようが……。この様な現状の中で、私達父親、母親は今何をしなければならぬかという大きな課題のもとに、一生懸命に取り組まなければなりません。子供の幸せを、私達親が守って行かなければならないと、思っています。

校長先生のお話をお聞きして、中学生は、子供から大人へと成長する過渡期に入って、むずかしい年頃となり、若者としての存在を、主張しようとしています。この様な現状の中で、私達父親、母親は今何をしなければならぬかという大きな課題のもとに、一生懸命に取り組まなければなりません。子供の幸せを、私達親が守って行かなければならないと、思っています。



* 家庭教育講座を受講して *

PTAの会員になってから、いろんな先生方のりっぱな講演を何回も聞いて参りました。その度に反省もし、今後の方針も立てるのですが、すぐに現実に戻ってしまいます。今回受講しました西山文男先生のお話の中で、「これからの世の中を動かすのはPTAでなければならぬ。全国のPTAの数は多大なものである。これだけの団体があるのなら政治をも動かすことが出来る……」。その言葉が心に残ります。いつたい私達は、PTA活動をどのように考えて参加してきたのでしょうか。役員だけのPTAであってはいけません。授業参観には、参加者が有り懇談、一なると13の人数にな



教養部会員